

教えて! 村長さん

『なぜ、ふるさと納税に村は力を入れるの?』
 『ふるさと納税はどうなったの?』→4億から15億に伸びました

広報紙のリニューアルに伴い、今号より新しくコーナーを始めることになりました。ここでは広報担当が村長に取材し、紙面を通して村の気になる現状や、日々の公務の様子などを皆さまにお伝えしていく予定です。初回となる今回は、村の大きな財源になりつつある「ふるさと納税」についてお伝えします。



Q なぜふるさと納税に力を入れるのですか?

A 大きな理由は2つあります。1つ目は税収の確保です。ふるさと納税は、寄付総額の半分が自治体に残る仕組みです。新たに確保できた財源は、政策予算として村民に還元することができ、2つ目は村のPRです。村の特産品や宿泊券などの返礼品を通して、知名度向上や販路拡大が大いに期待できます。リピーターや観光客・定住者など、村のファンを獲得し、地域活性化にもつなげることがができます。

Q 納税額が大幅に増えた要因を教えてください!

A 令和7年度の寄付額は15億円に上り、令和6年度の4億円から大幅な増加となりました。寄付額の半分となる約7億5千万円が、村の新たな税収となる計算です。

増加要因としては、①仲介サイトのポイント付与が禁止されるといった制度改正前の駆け込み需要や、②サイトに掲載する返礼品の写真の見せ方の工夫、③情勢に合わせたタイムリーな価格の設定などがあげられます。また、イベントでのPR活動も効果があったと考えられています。特に米は市場価値の高止まりの影響が大きく、サイト内の「米・雑穀ランキング」で第1位になるなど注目が集まりました。他には、あか牛や馬刺しの売り上げも好調でした。震災後、財政がひっ迫しているなかで、村の魅力や伸びしろを再確認することができました。寄付者や関係者の皆さまに感謝するとともに、この結果に満足せず、引き続きふるさと納税の

獲得に力を入れて参ります。今年度の目標は「2年連続で年間15億円」の達成です。

Q 寄付金は何に使われるのですか?

A 村民の暮らし向上や課題解決、地域振興につながるよう効果的に使っていきます。例えば、子育て支援や福祉関係などで、これまで手が届かなかったが必要とされる事業や将来への投資として配分します。目指す姿は、頑張る村民を応援できる強い村です。同時に返礼品についても、例えばブレンド米(県産米)だけでなく、より質の高い村産ブランド米の流通を増やすなど、村内事業者の売り上げにも繋がるようセールスを強化。農業みらい公社は今年度から、返礼品開発もできるよう地域商社化を進めます。ふるさと納税で税収アップと村内経済活性化の両立を目指します。

昨年12月にはふるさと納税アンバサダーに宇土市出身の義ノ富士関が就任し、大躍進を続け

ています。今年の初場所では両国国技館で15日間、村の懸賞幕も披露されました。義ノ富士関の勢いとともに、村もしっかりと実績を残せるよう邁進していきます。



① 役場を訪問された義ノ富士関のお父様との記念写真 ②③ 役場の玄関そばに義ノ富士関のパネルや番付板、懸賞旗などを展示しています